

「2012 レトロ駅舎スタンプラリー」駅舎のみどころ

• ほうこく方谷駅（伯備線）

斜面沿いに建てられたホームは駅舎より高い場所に位置している珍しい駅。ホームの向かい側には「山田方谷先生住宅址」の碑が残っている。日本鉄道史上初めて人名がつけられた駅と言われている。また、国鉄時代の駅名の青看板が残っている。

• いわやま岩山駅（姫新線）

駅舎もトイレも木造で、趣き深い風情が漂う。待合室などは改修されているが、雰囲気を変えないよう細部に配置されている。現在は1面1線のホームだが、かつては2面2線であったため、使われなくなったホーム跡を見ることができる。

• みまさかせんだい美作千代駅（姫新線）

木製の電信柱円筒状の赤いポストなどを配置し、古き良き駅舎の雰囲気を演出した木造駅舎。入り口には自然木の駅名看板が掲げられ、構内も整然と整えられていて美しい美観を保持している。

• みまさかえみ美作江見駅（姫新線）

木造の和瓦葺き屋根で、一見古い民家を思わせる駅舎が、開業当時の面影をそのまま残している。平成20年のNHKドラマ「バッテリー」のロケでは原作に則り「新田駅」として使用された。

• みまさかたきお美作滝尾駅（因美線）

昭和3年の設置された当時の姿をそのまま残す木造校舎の駅舎。山田洋次監督の「男はつらいよ」の最終作の冒頭シーンが撮影されたロケ地としても有名で、待合室には監督自身が書いた手紙や撮影風景の写真などが飾られている。構内や改札ラッチも木製で情緒ある雰囲気が漂う。

• みまさかかわい美作河井駅（因美線）

因美線の中では最高所（標高335m）にある緑あふれる山中に佇む小さな駅。2007年4月に発掘された手動転車台（2009年2月近代産業遺産に登録）が鉄道の歴史を語る。駅舎には訪れた方々の思い出を書き残せる「美作河井駅ノート」がある。

• なぎ那岐駅（因美線）

当時の地方駅舎の典型的な造りを残す木造駅舎は、入口をはいってすぐに現れる階段を上がると、傾斜面上のホームに出ることができる。因美線の中でも豪雪地帯の駅のため、階段には雪覆いの屋根壁が付けられている。駅構内に診療所があり、月2回診察が行われている。

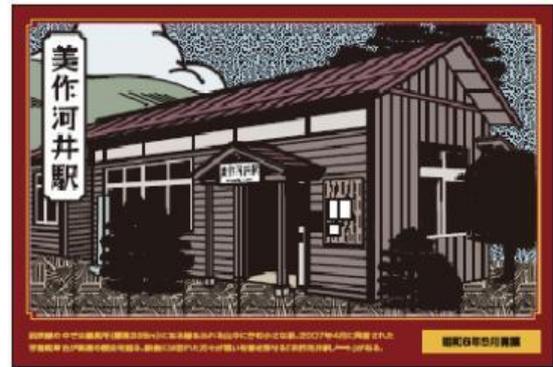
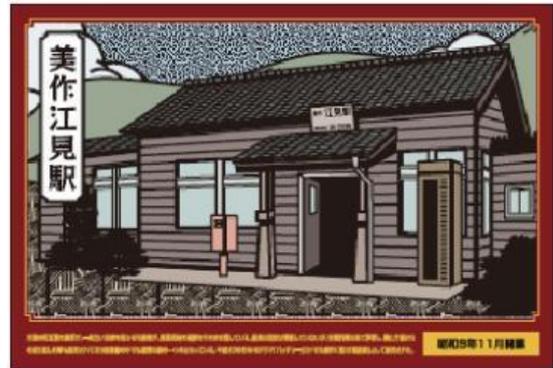
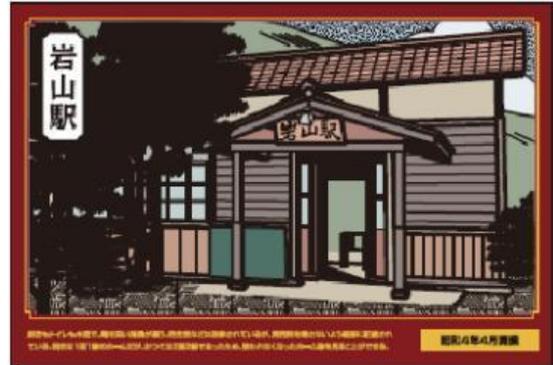
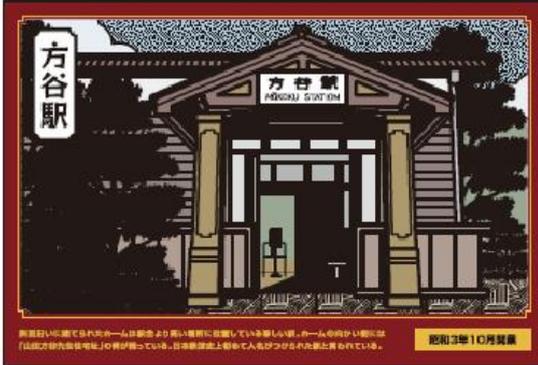
• たけべ建部駅（津山線） 明治33年4月開業

開業当時の姿を残しており、映画「カンゾー先生」のロケ地としても有名。駅構内の設備や出札窓口等も状態良好で残っており往事の賑わいを偲ぶことができる。岡山県の旧国鉄駅では最初に登録有形文化財（平成18年）に指定された鉄道遺産。手書きの駅名看板が残っている。

認定書デザイン



ポストカードデザイン



認定書、ポストカードのデザインはイメージです。